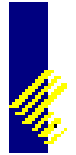


カーボンフットプリントの日本の活動

- PCRのアプローチ -

 稲葉 敦
工学院大学工学部
環境エネルギー化学科 教授

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2
電話;03-3340-2679 Fax;03-3340-0147
e-mail:a-inaba@cc.kogakuin.ac.jp



今日は

1. カーボンフットプリントの背景と
経済産業省の試行事業（2008年度）
2. ライフサイクルアセスメント（LCA）と
カーボンフットプリント（TS Q 0010）
3. 経済産業省の試行事業（2009年度）
4. ISO化の作業（ISO-14067）
5. 消費者の受け止め方

カーボンフットプリントの意義

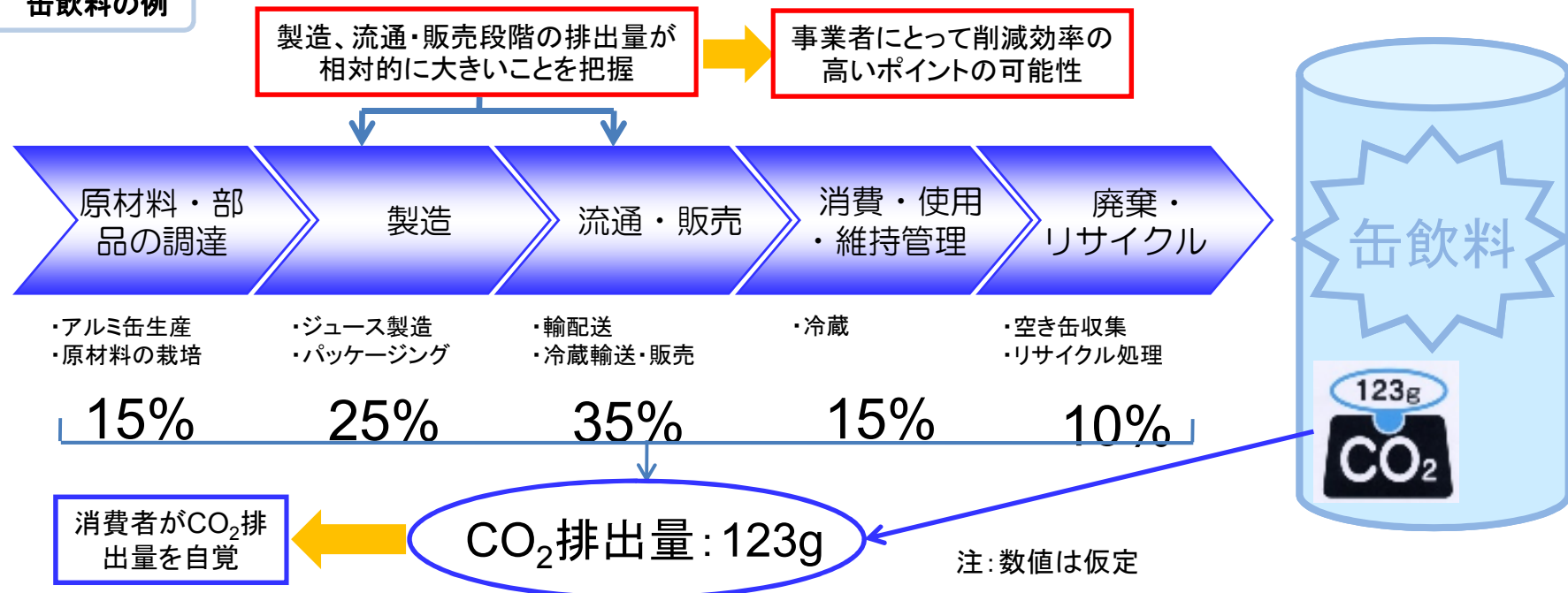
事業者にとっての意義

- サプライチェーン全体の排出量を「見える化」することで、削減効率の高いポイントを把握。事業者単位を超えた一体的な削減対策により、全体最適化を実現。
- 自らの環境負荷低減に対する取組の消費者へのアピール。

消費者にとっての意義

- 消費者によるCO₂排出量の自覚促進
- 環境負荷低減に向けた適切な情報の提供

➤ 缶飲料の例



カーボンフットプリントの歴史

- 2006 12月 英国テスコ社の実施宣言
- 2007 1月 英国ウォーカー社が試行販売実施
- 2007 6月 ISO/TC207/SC7(北京)で検討開始
- 2008 6月 福田総理の「低炭素社会・日本」
METI試行プロジェクト開始
 - 6月 SC7(ボコタ)新作業提案,11月可決
 - 12月 エコプロダクツ2008で30社が試算
- 2009 1月 SC7-WG2第1回会合(コタキナバル)
6月第2回(カイロ),10月第3回(ウィーン)
 - 10月 日本で3品目が市場へ
 - 12月 エコプロダクツ2009で27社が実施
- 2010 2月 SC7-WG2第4回(東京)

カーボンフットプリントの背景

カーボンフットプリント制度とは、製品（サービス含む）のライフサイクル全般（原材料調達から廃棄・リサイクルまで）で排出された温室効果ガスを、地球温暖化に与える影響の程度によりCO₂相当量に換算し、表示する制度。

背景

温室効果ガス排出量の「見える化」による地球温暖化対策

➤ 「低炭素社会づくり行動計画」（2008年7月29日閣議決定）において、カーボンフットプリント制度等による温室効果ガス排出量の「見える化」について 明言

- ・2008年度中に排出量の算定やその信頼性の確保、表示の方法等に関するガイドラインを取りまとめる。
- ・2009年度から試行的な導入実験の開始を目指す。
- ・ISO（国際標準化機構）におけるカーボンフットプリント制度の国際標準化に向けた議論に積極的に貢献する。

➤ カーボンフットプリントに対する 国際的な議論の高まり

- ・イギリスなどいくつかの国で、カーボンフットプリント制度に関する具体的な取組が始まっている。
- ・このような動きを受け、ISOにおいてもカーボンフットプリント制度に関する議論が一部の委員会で行われる。

実用化・普及に向けた2008年度の取組

《2008年度の成果》

研究会を開催し、指針・基準等を整備。2009年度以降に向けた基礎を作った。

- 「カーボンフットプリント制度の在り方(指針)」の策定
 - カーボンフットプリントの算定・表示方法
 - カーボンフットプリント制度の構築・普及に向けた課題整理
- 「商品種別算定基準(PCR)策定基準」の策定

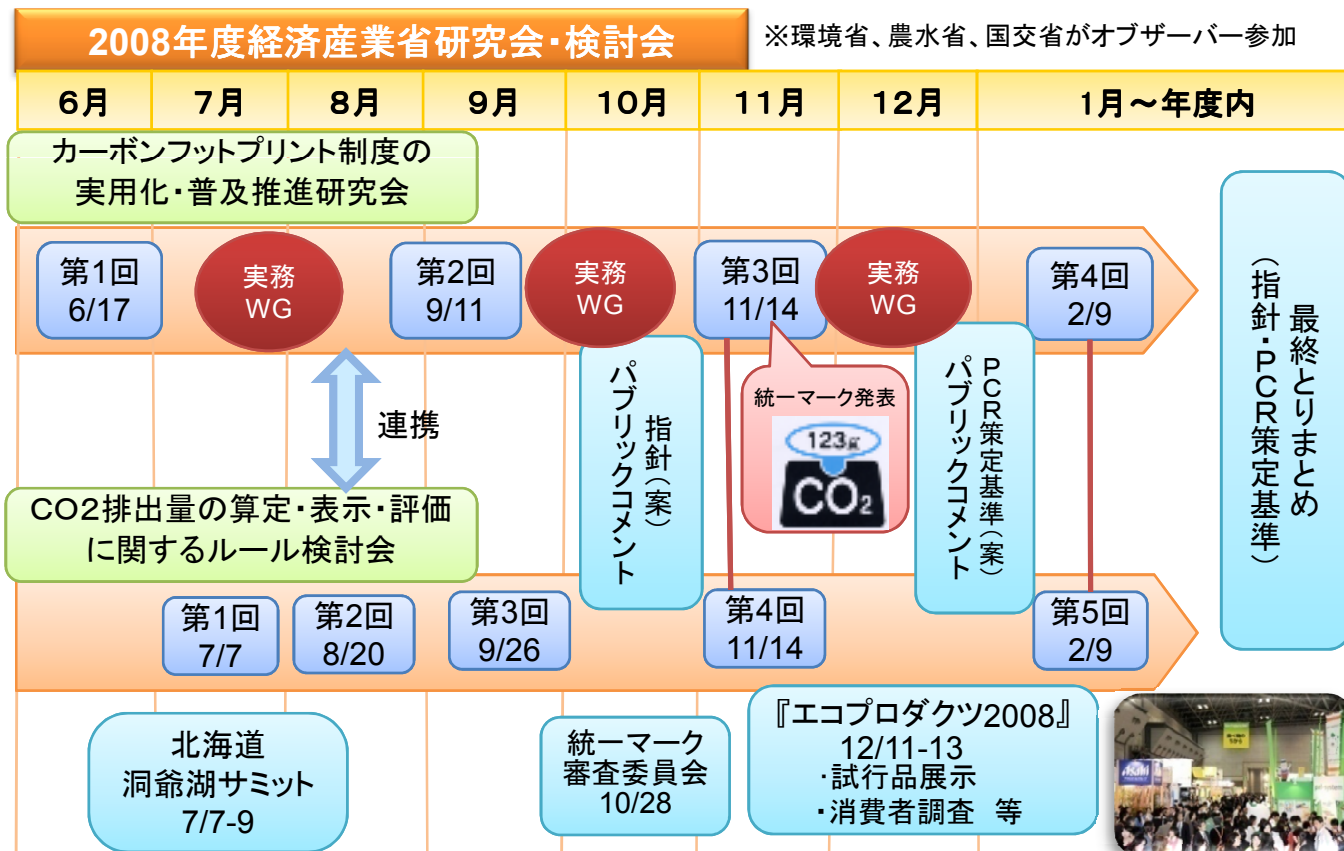
《研究会参加企業 30社》

【小売】

- ・イオン
- ・セブンアンドアイ
- ・ローソン
- ・丸井
- ・ファミリーマート
- ・CGC
- ・西友
- ・日生協
- ・ユニー

【消費財メーカー】

- ・サッポロ
- ・カゴメ
- ・カルビー
- ・日清食品
- ・日清製粉
- ・ライオン
- ・紀文フードケミファ
- ・パナソニック
- ・東芝ライテック
- ・コクヨファニチャー
- ・コクヨS&T
- ・コクヨストアクリエーション
- ・大日本印刷
- ・日本テトラパック
- ・東洋製罐
- ・中央化学
- ・ネスレ
- ・味の素
- ・日本ハム
- ・花王
- ・ユニチャーム



2009年度～
○市場への流通
○ルール(指針・PCR策定基準)の精緻化



今日は

1. カーボンフットプリントの背景と
経済産業省の試行事業(2008年度)

2. ライフサイクルアセスメント(LCA)と
カーボンフットプリント(TS Q 0010)

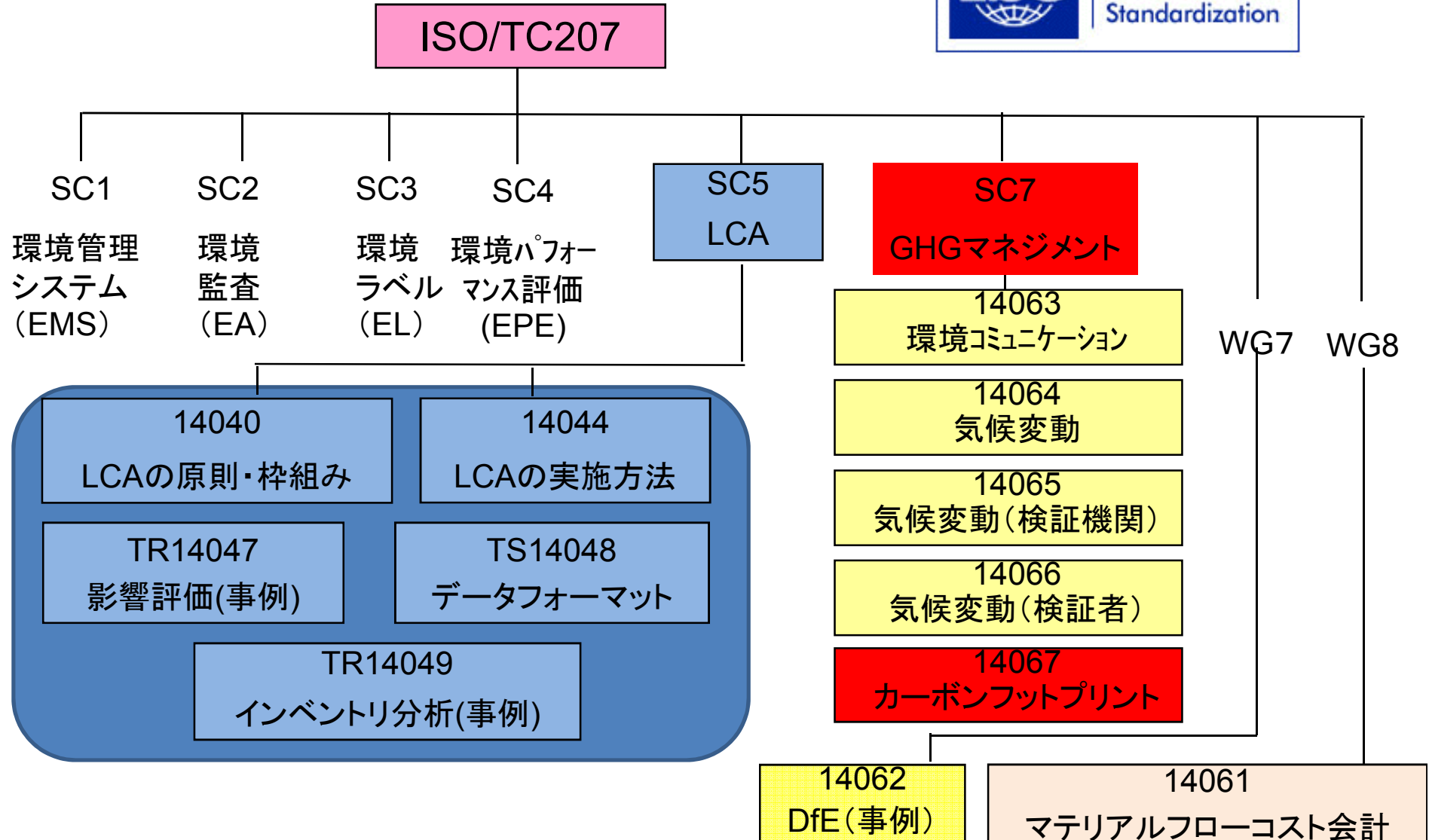
3. 経済産業省の試行事業(2009年度)

4. ISO化の作業(ISO 14067)

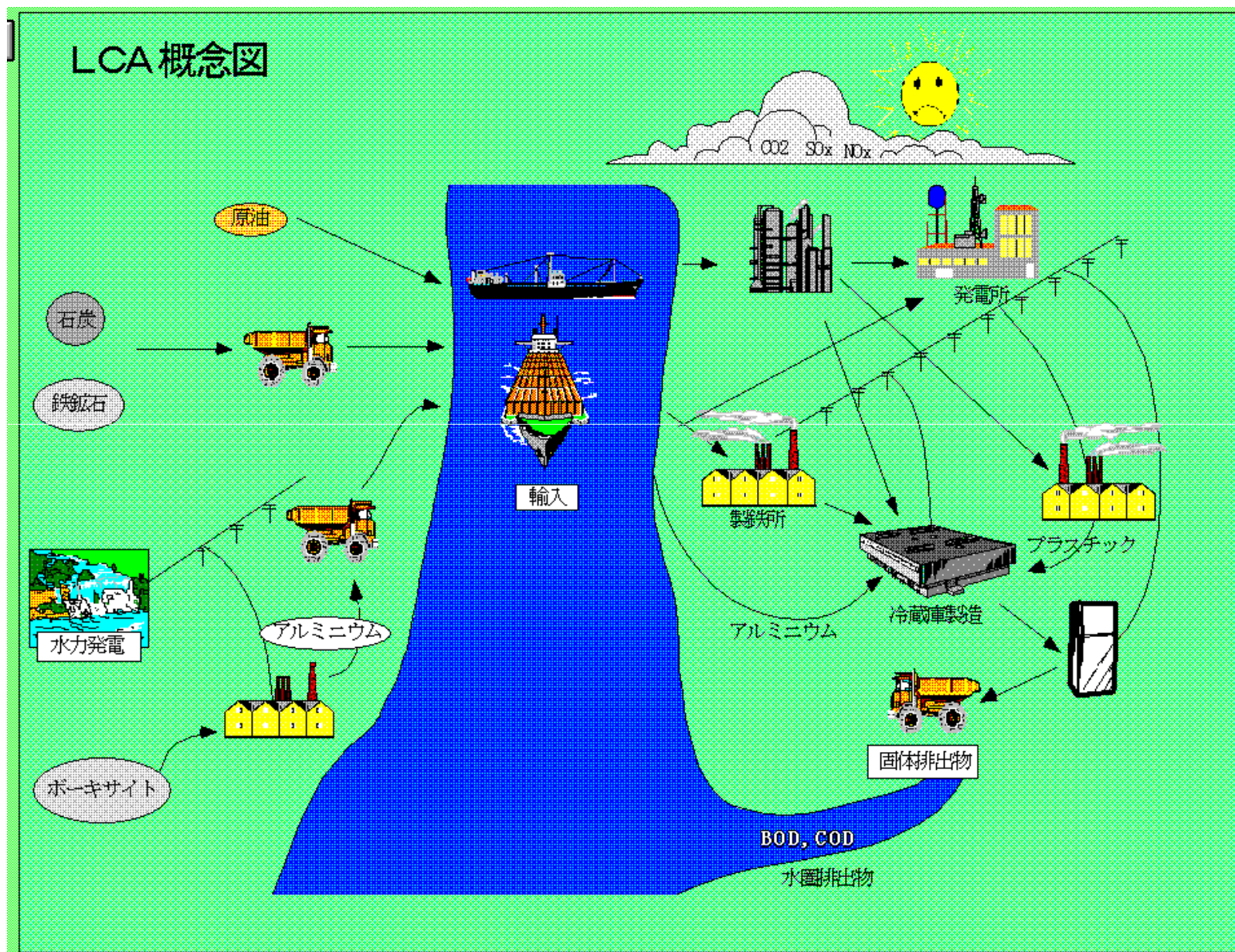
5. 消費者の受け止め方

ISO14000シリーズとライフサイクルアセスメント(LCA)

◆ISOにおける14000シリーズの検討体勢は以下の通り。

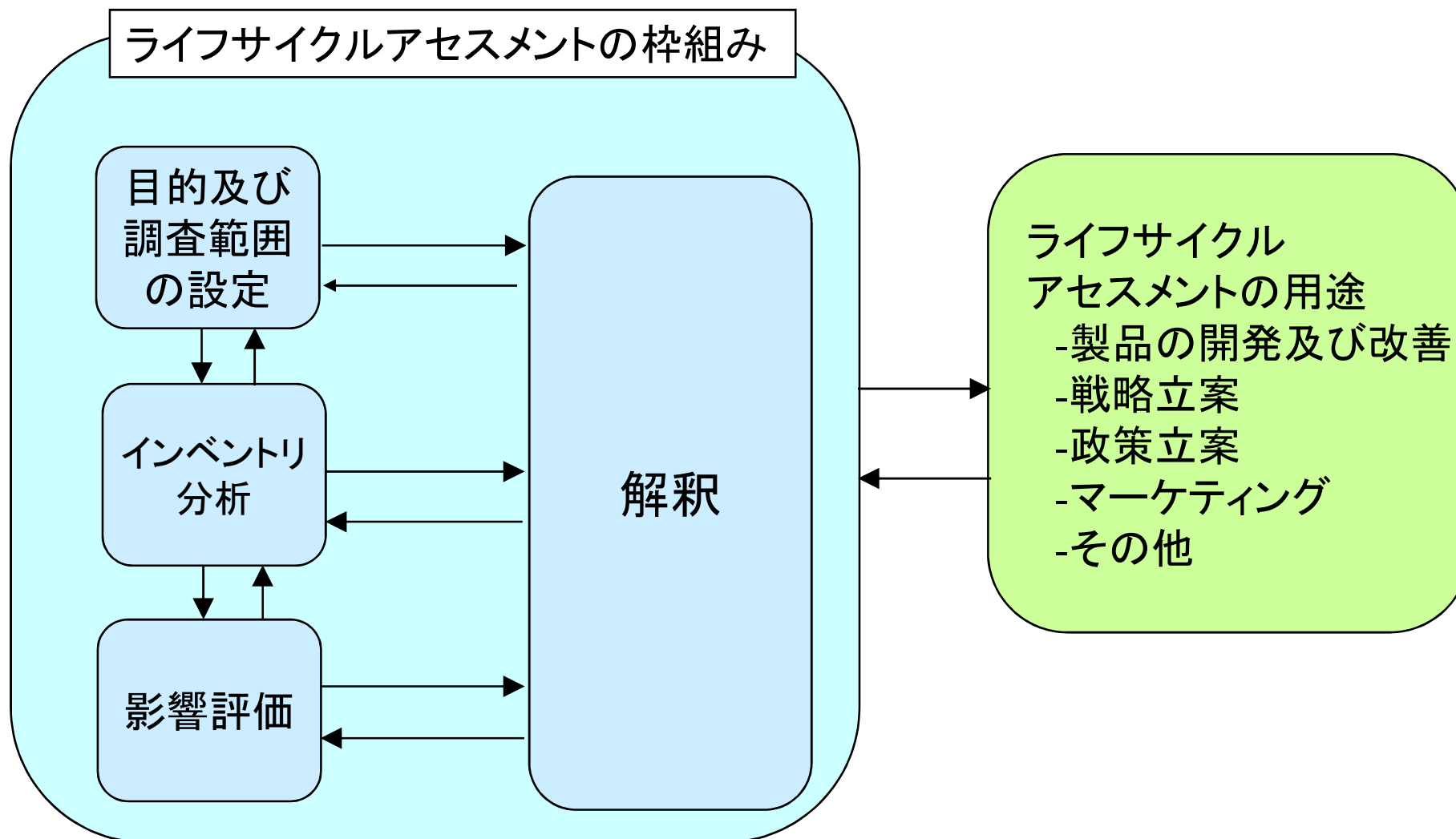


ライフサイクルアセスメント(LCA) ～「ゆりかごから墓場まで」～



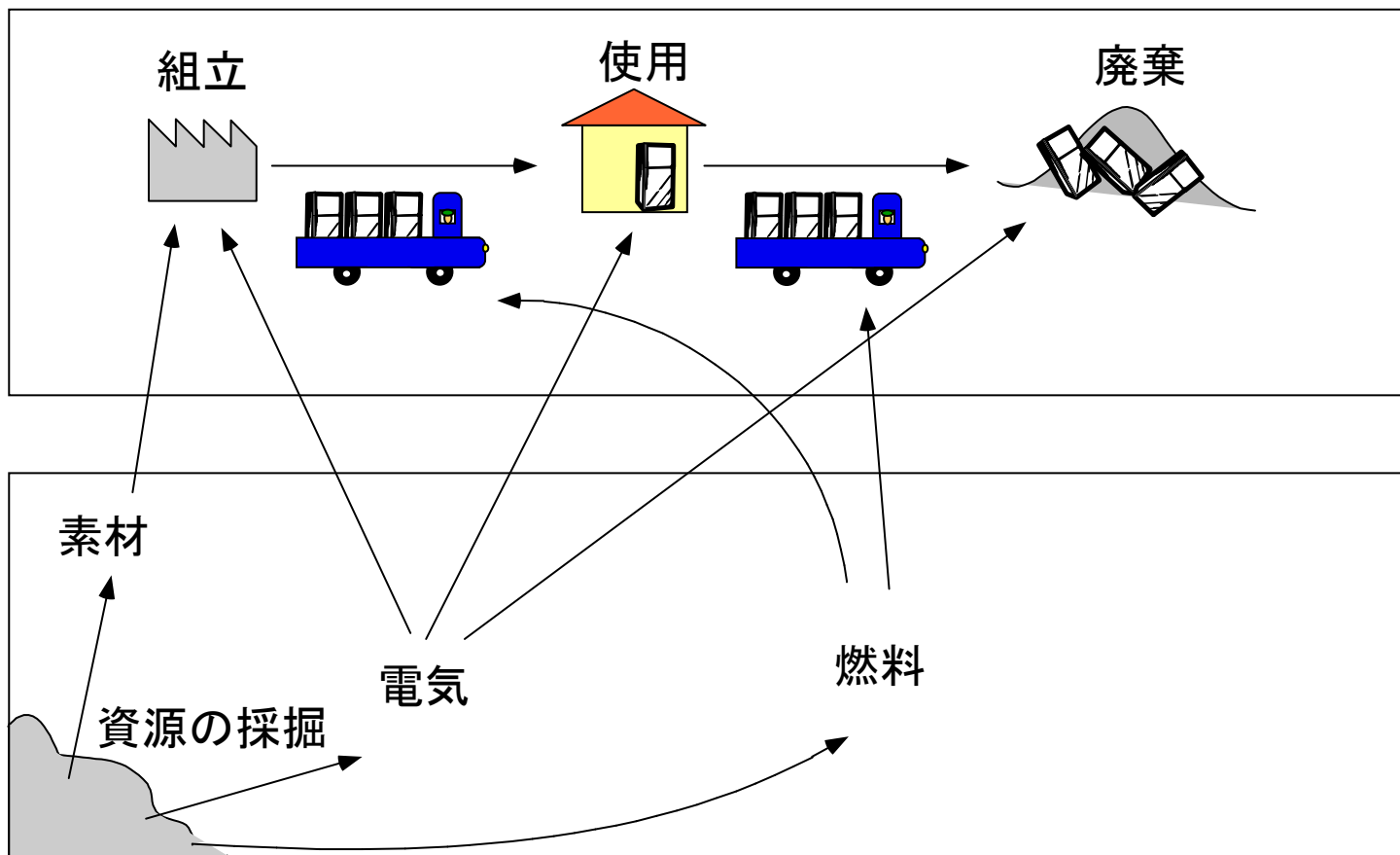
JIS Q 14040の概念

◆JIS Q 14040(ライフサイクルアセスメント)の概念は以下の通り。



ライフサイクルインベントリ分析とは

フォアグラウンドデータ（対象製品に直接関係するデータ）



バックグラウンドデータ（対象製品に間接的に関係するデータ）

ライフサイクル影響評価

必須要素

分類化 (Classification)

[インベントリ分析結果]

CO₂
HCFCs
SO_x
NO_x
・
・

特性化 (Characterization)

[インパクトカテゴリ]

地球温暖化
オゾン層の破壊
酸性化
富栄養化
光化学オキシダント
の生成
人間への毒性影響

付加的要素

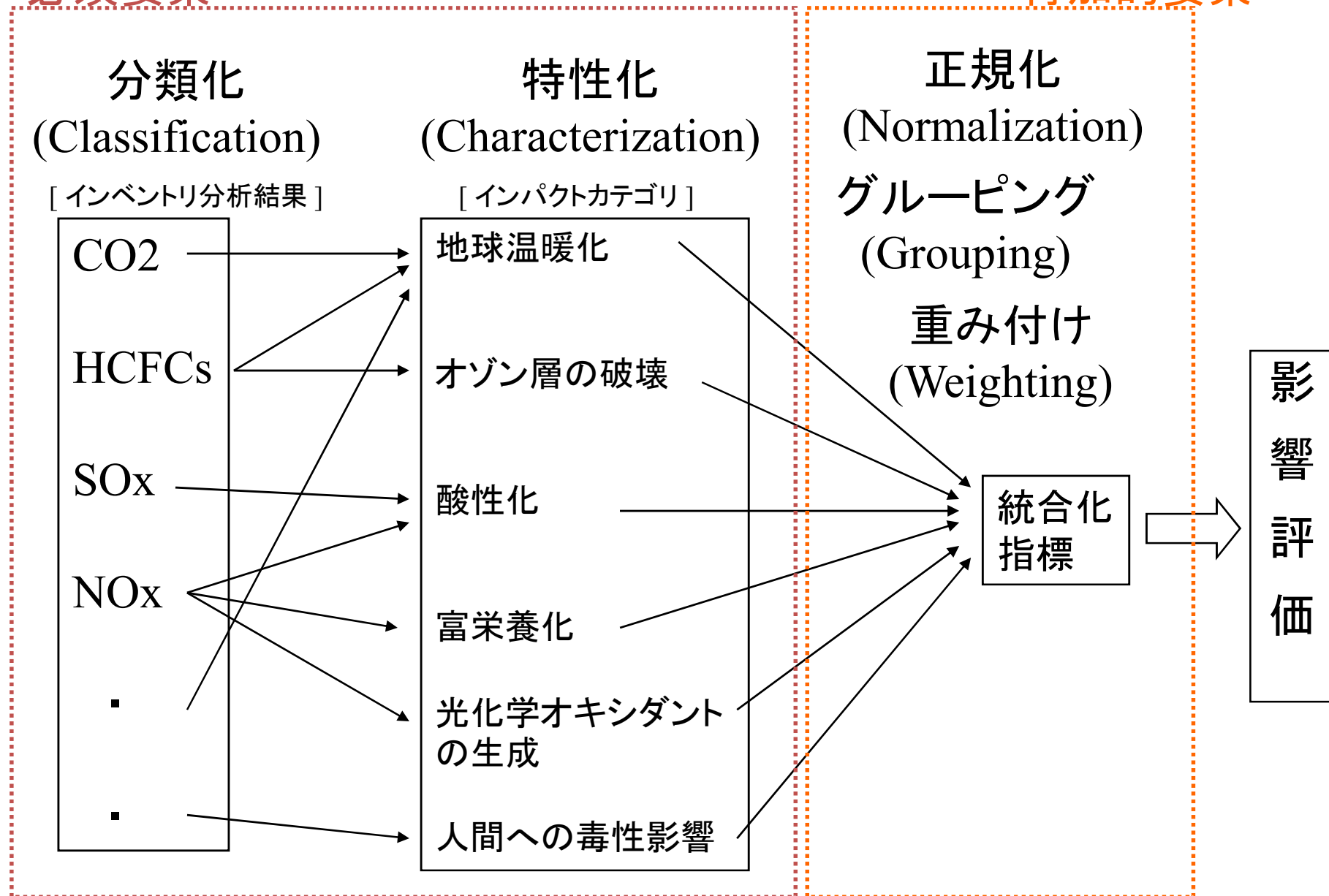
正規化 (Normalization)

グルーピング
(Grouping)

重み付け
(Weighting)

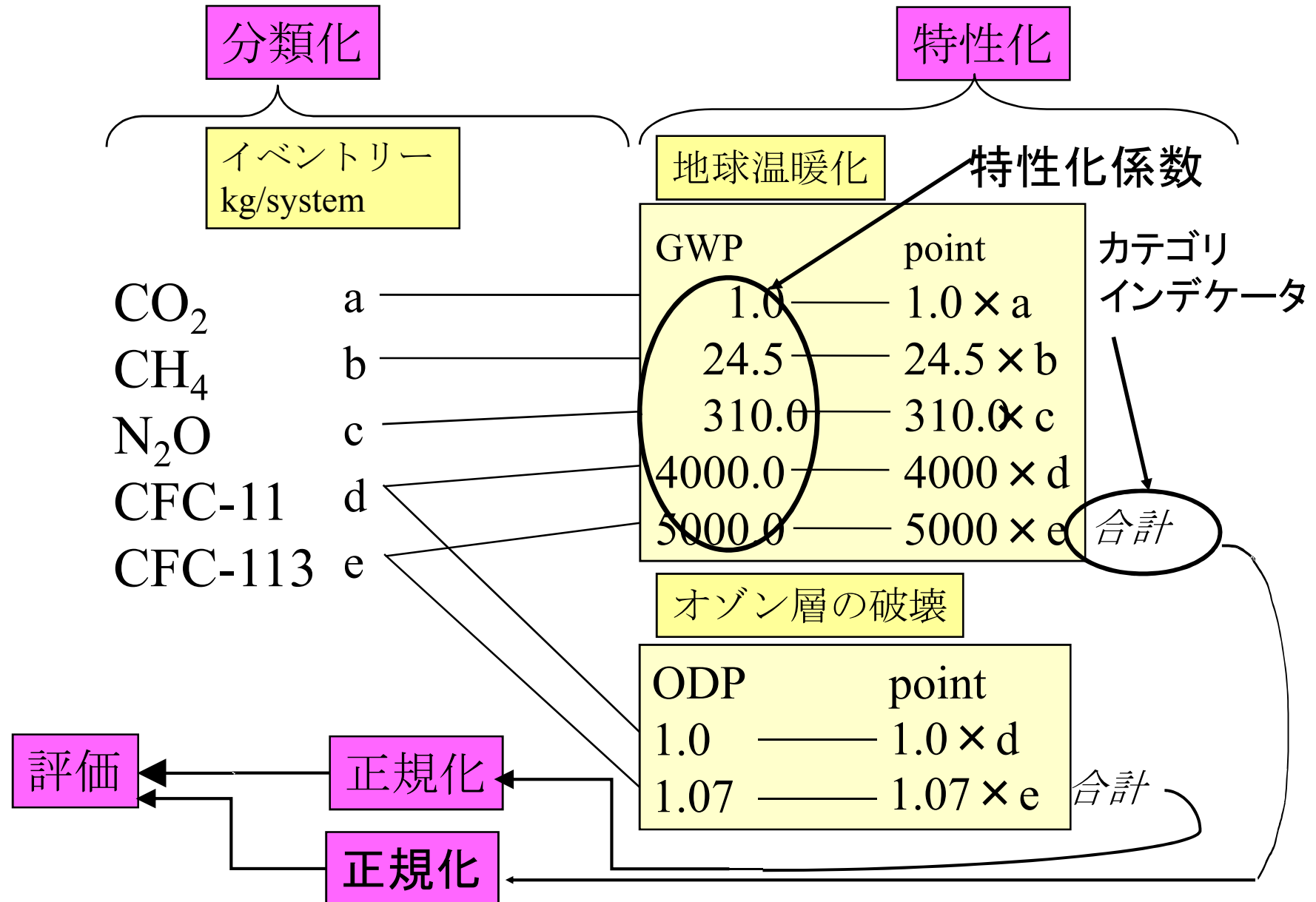
統合化
指標

影
響
評
価



ライフサイクル影響評価

◆ライフサイクル影響評価は、潜在的な環境影響の重要性などを評価するものである。



●全てのデータを集めることはできない。

→カットオフルールを決める。

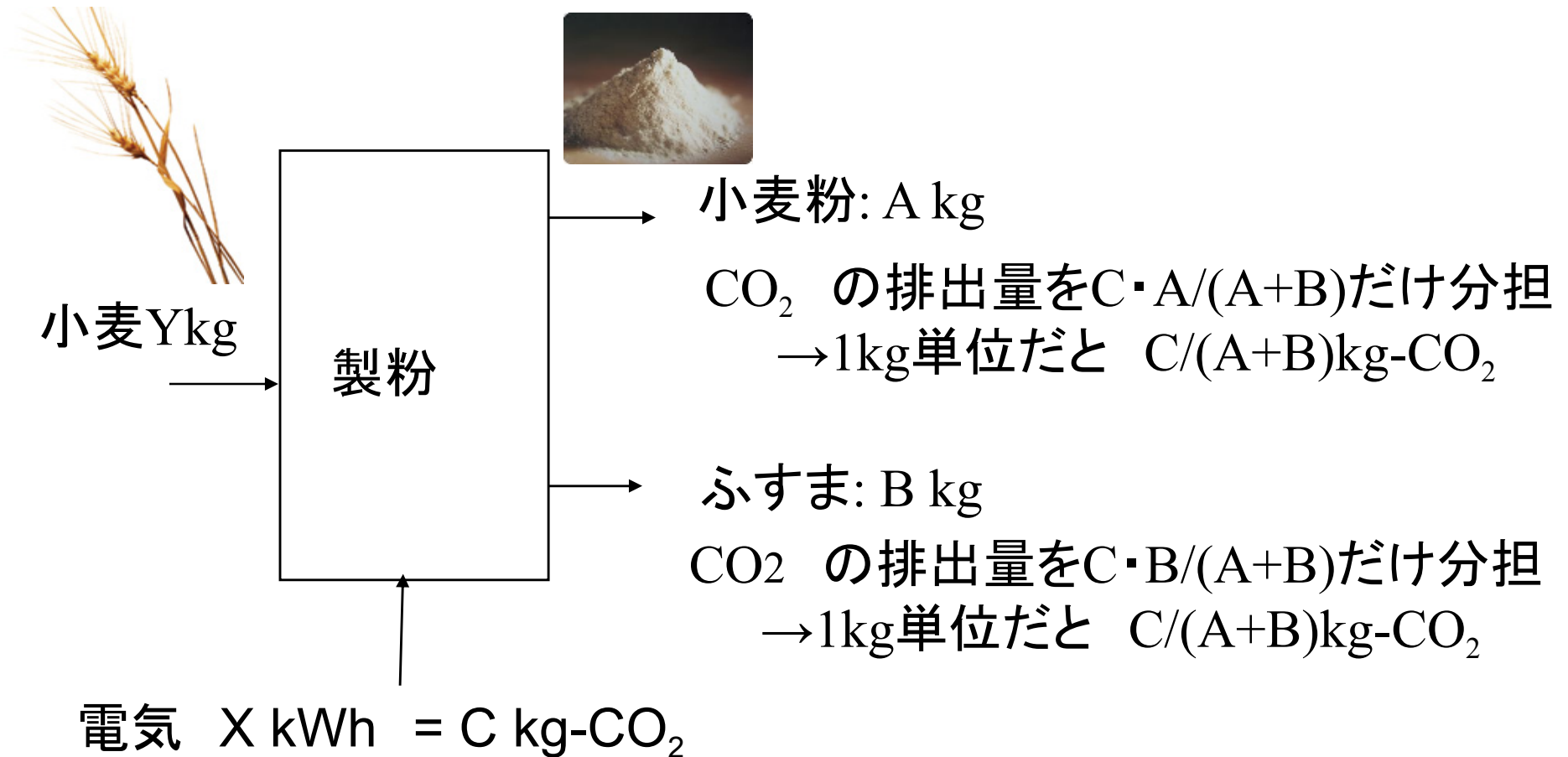
たとえば、製品の重量の95%までを計算して、
100%を推定した数値を示す。

→自分の工場のデータは自分で集める。

工場で買っている物は一般的な日本の平均の
データを使う。

配分(アロケーション)

重量基準で配分するとkgあたりの負荷はどちらも一緒



プロダクトカテゴリールール(PCR)の手法(1)

- 製品グループごとに環境/GHGパフォーマンス-バリエーションの点で差がある場合があることを算定ルールにおいて考慮に入れるべき
- 同等の機能を持つ製品のLCAに関する要求事項を決めることにより、信頼性の高いLCA/CFPデータ比較が可能となる

- PCRが必要な理由
 - LCA/CFP算定結果を外部向けに利用する際は、算定のスコープ・ルールが同じである必要がある
 - 偏りのない比較を可能にするためには共通で整合性のある算定ルールを作成する必要がある

プロダクトカテゴリールール(PCR)の定義

- 一つ又は複数の製品カテゴリー(3.12)に関するタイプIII環境宣言(3.2)を作成するための一連の固有の規則,要求事項及び指示

» -ISO 14025より抜粋

- PCR=環境ラベル/宣言を比較する際の原則を満たすための特定かつ透明性のあるルールであり、企業独自のルールを避けるため第三者によりレビューされる
- PCR≠ LCA用の詳細ルール

- ISO14025の要求事項を適用するのが望ましい
 - PCR の内容(6.7.1)

- a) 製品カテゴリーの定義及び記述(例えば,機能,技術性能及び用途),
- b) ISO14040シリーズに従った製品のLCAに関する目的及び調査範囲の設定,
- c) インベントリ分析,
(省略)
- i) タイプIII環境宣言の内容及び書式に関する指示書(7.2参照)
- j) 宣言が,すべてのライフサイクル段階を扱うLCAに基づかない場合,考慮されていない段階に関する情報;
- k) 有効期間.

- 比較可能性に関する要求事項(6.7.2)

- 異なる宣言の比較が可能であるのはPCRにおける条件内容が同一である場合である.

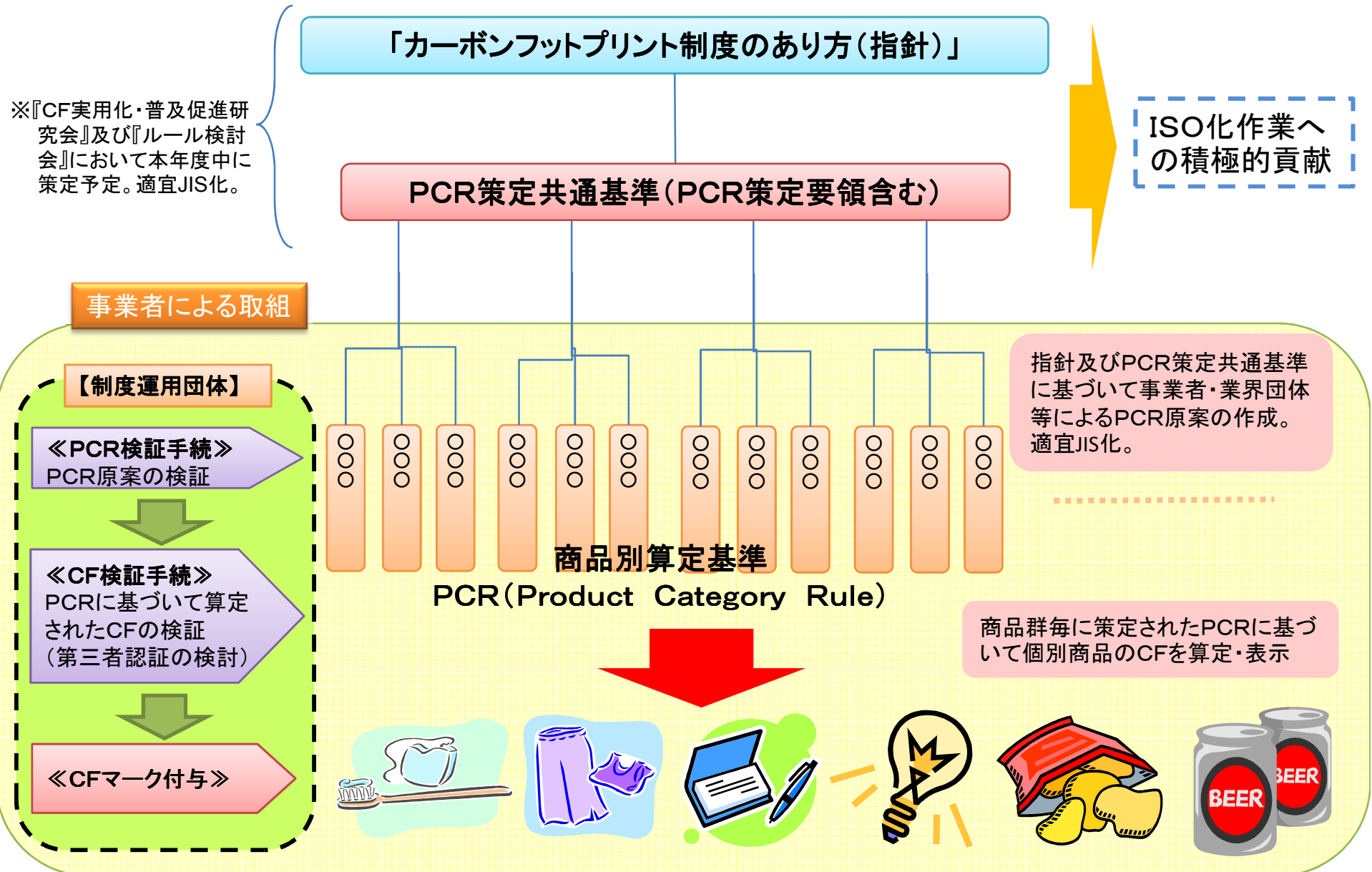
- 宣言内容の要求事項 (7.2.1)

- 異なるプログラムによる環境宣言は,比較可能でないかもしれないという記述;

異なるプログラム/企業は設定の異なるPCRをつくる可能性があるため

- 更なる要求事項がISO14067-2で協議されることが望ましい

我が国におけるカーボンフットプリント制度のルール体系



カーボンフットプリント制度のあり方(指針)」のポイント ①

【カーボンフットプリントの定義】

- ・ 商品・サービスのライフサイクル全般(原材料調達から廃棄・リサイクルまで)で排出された温室効果ガスをCO₂量に換算し、簡易な方法で分かりやすく表示したもの。

【導入が期待される分野】

- ・ 商品分野については、消費者の購入機会が多い非耐久消費財から導入。耐久消費財においても、既存のLCA制度があるものから順次導入。
- ・ サービス分野については、運輸・民生業務部門などのサービス分野において検討を進める。

【制度の目的】

- ・ 市場評価による事業者の削減努力を促進。消費者に購買時の判断材料を提供することで、消費者の排出意識の喚起を促し、消費活動を通じた削減を促進。

【算定方法の在り方】

➤ 算定対象ガス

対象となる温室効果ガスは、京都議定書の対象の温室効果ガス。(二酸化炭素(CO₂), メタン(CH₄), 亜酸化窒素(N₂O)、ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)、パーフルオロカーボン類(PFCs)、六フッ化硫黄(SF₆))。

カーボンフットプリント制度のあり方(指針)」のポイント ②

➤算定式

$\text{CO2排出量} = \sum (\text{活動量}_i \times \text{CO2排出原単位}_i)$: i はプロセス

➤算定範囲

・ ライフサイクル全体(5段階)での算定を基本。個々の商品・サービスの特性に応じ、各段階の算定範囲を合算。

- 原材料調達段階
- 生産段階
- 流通・販売段階
- 使用・維持管理段階
- 廃棄・リサイクル 段階

➤一次データと二次データ

◆一次データ

算定事業者が自らの責任において収集するデータ。算定では可能な限り一次データを使用する。

● [PCR策定基準]特定の原材料で複数のサプライヤーがある場合は50%以上を収集

◆二次データ

自ら収集することが困難で共通データや文献データ、LCAの実施例から引用 するデータのみによって収集されるデータ。

カーボンフットプリント制度のあり方(指針)」のポイント ③

➤商品種別算定基準(PCR: Product Category Rule)

- ・ 算定条件(算定範囲、カットオフ基準、配分の考え方、シナリオ設定等)を定める商品種別基準を策定。同一分野で乱立しないよう一定の公的関与。

➤配分(アロケーション)

- ・ 生産段階や流通・販売段階で複数種類の商品の混在や複数プロセス(例:常温／冷蔵／冷凍販売等)が想定されたりする場合は、全体の排出量から個別商品の排出量を推計(配分)。配分方法(重量比・経済価値比等)は、商品特性やプロセス特性に応じて各PCRで定める。

➤カットオフ基準

- ・ 商品を構成する部品・材料のうち、ライフサイクル全体での算定結果に大きな影響を及ぼさないものは、算定対象から除外(カットオフ)。
- ・ 具体的基準は各PCRにおいて公正な議論を踏まえて設定。

●[PCR策定基準]で各段階でCO2排出量の5%に限定

➤シナリオの設定

- ・ 使用・維持、廃棄・リサイクル段階等において、活動量の把握が困難な場合は、各PCRにおいて想定されるシナリオを設定できる。
- ・ シナリオにより自らの責任で収集したデータは一次データとする。
- ・ シナリオは各PCR策定時に公正・公平な議論のもとに設定。

カーボンフットプリント制度のあり方(指針)」のポイント ④

【表示方法の在り方】

➤表示の基本ルール

- 共通ラベルの使用
- 原則として、商品1個あたりのライフサイクル全体排出量の絶対値を表記。単位は「g(kg、t)－CO₂換算」。実際は商品1個当たりの「g(kg、t)」の絶対値を表示
- 原則として、商品本体又は包装資材に貼付。
- 表示事業者は排出量の継続的削減に向けて努力。数値目標は義務付けないが、目標を宣言する場合は追加表示を認める
- 詳細情報のインターネット等での公開
※表示位置とサイズに関するルール、詳細表示の方法等について今後検討。

➤選択的措置

表示事業者は、基本表示に加えて例外的表示を行うことができる。ただし、CO₂排出量に関するものに限る。

(追加表示例)

- 従来製品、業界標準値に対する削減率
- プロセス(算定段階)別、部品別表示
- 使い方により排出量が少なくなる等の表示
- 1回使用当たり排出量
- 耐久消費財における想定寿命(使用年数)
- 地域差、季節変動、サプライヤー差を伴う表示 等

カーボンフットプリント制度のあり方(指針)」のポイント ⑤

【信頼性確保の仕組みの在り方】

- 独立した公正な第三者による検証の仕組みを検討。
- 信頼性の確保と事業者側負担の効率化との適切なバランスが重要。

【制度の実用化・普及に向けた課題】

- 政府、消費者団体等によるPR・啓発活動の展開による認知度の向上。
- 算定等に伴うコストの適正な転嫁に係るすべての事業者の共通認識。
- 網羅性が高く更新が容易な二次データベースの構築等。
- 海外で異なる表示制度が導入されている場合など、単純に比較できないことを消費者に周知する一方、相互承認の仕組み作りを検討。

【他の制度・アプローチとの関係】

- カーボンオフセットへの適用可能性や第三者検証の相互関連等。
- 環境家計簿における商品の排出量の活用。

【他の国際ルールとの整合性】

- 貿易障害的な影響を与えず、公正な競争の基盤となりうるように、WTO協定等を踏まえつつISO規格等との国際整合性に十分配慮。

我が国のカーボンフットプリント試行事業の主要ポイント

1. PCR アプローチ

- － 算定ルールの特明性を確保する
- － 偏りのない比較を行う
- － データの品質を確保する

2. プログラムベース

- － 信頼性・透明性を責任を持って確保する
- － プログラム内のデータの整合性を保つための手順を作成する
- － PCRとCFPに関する文書のリストや記録を公表しておく
- － 独立した検証者・PCRレビューパネルのメンバーとして適任者を選抜する

3. 独立した検証

- － ISO14025に基づき、コスト効率がよい
- － スピーディー
- － 信頼性が高い

今日は、、、

1. カーボンフットプリントの背景と
経済産業省の試行事業(2008年度)
2. ライフサイクルアセスメント(LCA)と
カーボンフットプリント(TS Q 0010)
3. 経済産業省の試行事業(2009年度)
4. ISO化の作業(ISO 14067)
5. 消費者の受け止め方

カーボンフットプリントマークを貼付した商品の事例

- 平成21年10月13日、試行事業における第1号案件として、うるち米(ジャポニカ米)、菜種油、衣料用洗剤にかかるカーボンフットプリントの算定結果及び表示方法に関して、有識者により構成される第三者委員会において検証が行われ、その内容が適当と判断された。
- これを受け、平成21年10月17日よりカーボンフットプリントマークを貼付した下記の3製品が最初にマークの貼付を認められた商品となった(年末お歳暮商品)。
- 2010年1月29日現在では、24件の商品について、マークの利用許諾が与えられている。
(webサイト) <http://www.cfp-japan.jp/calculate/verify/permission.php>

2009年10月に最初にマーク貼付が認められた3商品



うるち米(ジャポニカ米)



菜種油



衣料用洗剤

※カーボンフットプリントマークはカタログに表示されており、商品自体には貼付されていない。

出典: イオンホームページより

～ エコプロダクツ2009出展報告 ～ カarbonフットプリント表示商品の展示

- カarbonフットプリントを表示した商品サンプルを展示
- 職場、学校、家庭の3つの利用シーンに分けてディスプレイ

●エコプロダクツ2009

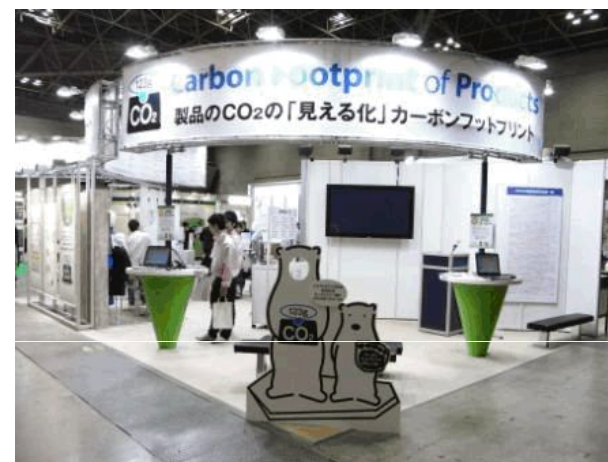
- ・会期:平成21年12月10日～12日 会場:東京ビッグサイト
- ・来場者数:18万2510人 (昨年比 8593人増)

●カarbonフットプリントコーナー(経済産業省 環境調和産業推進室)

- ・参加事業者数 27社
- ・CFP表示製品展示 62品目 (一部、未検証含む)

●来場者アンケートの実施

- ・調査票A (CFP制度全般) 回収数:841
 - ・調査票B (表示について) 回収数:751
- 分析結果については別途報告予定



(NHKニュースの取材)



(家庭で)



(職場で)



(学校で)

日本における事例(エコプロ2009において)

コーヒー



チョコレート菓子



～ エコプロダクツ2009参加報告 ～ カarbonフットプリント制度説明会

- 来場者300名超で満席の盛況
- 試行製品の市場流通が徐々に進められていく中で、消費者の参加を効果的に促していくことをテーマとしてパネルディスカッション等を行った。

●カーボンフットプリント制度説明会 ―はじまります。製品の「CO2見える化」―

- ・日時： 2009年12月12日(土)10:00～12:00
- ・会場： 東京ビッグサイト レセプションホールA

<発表者>

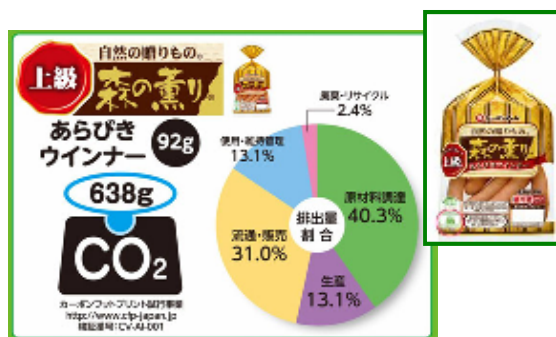
- ・制度説明(DVD放映、制度概要および進捗状況の説明)
経済産業省・村田環境調和産業推進室長
- ・講演(カーボンフットプリント市場流通の報告など)
稲葉座長(工学院大学)
柊島氏(イオン)
藤岡委員(カルビー)
辰巳委員(日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会)
- ・パネルディスカッション(消費者の低炭素行動とカーボンフットプリント)



カーボンフットプリントマークの付与が認められた製品

CFPマーク使用許諾商品数: 25 (2010年2月2日現在)

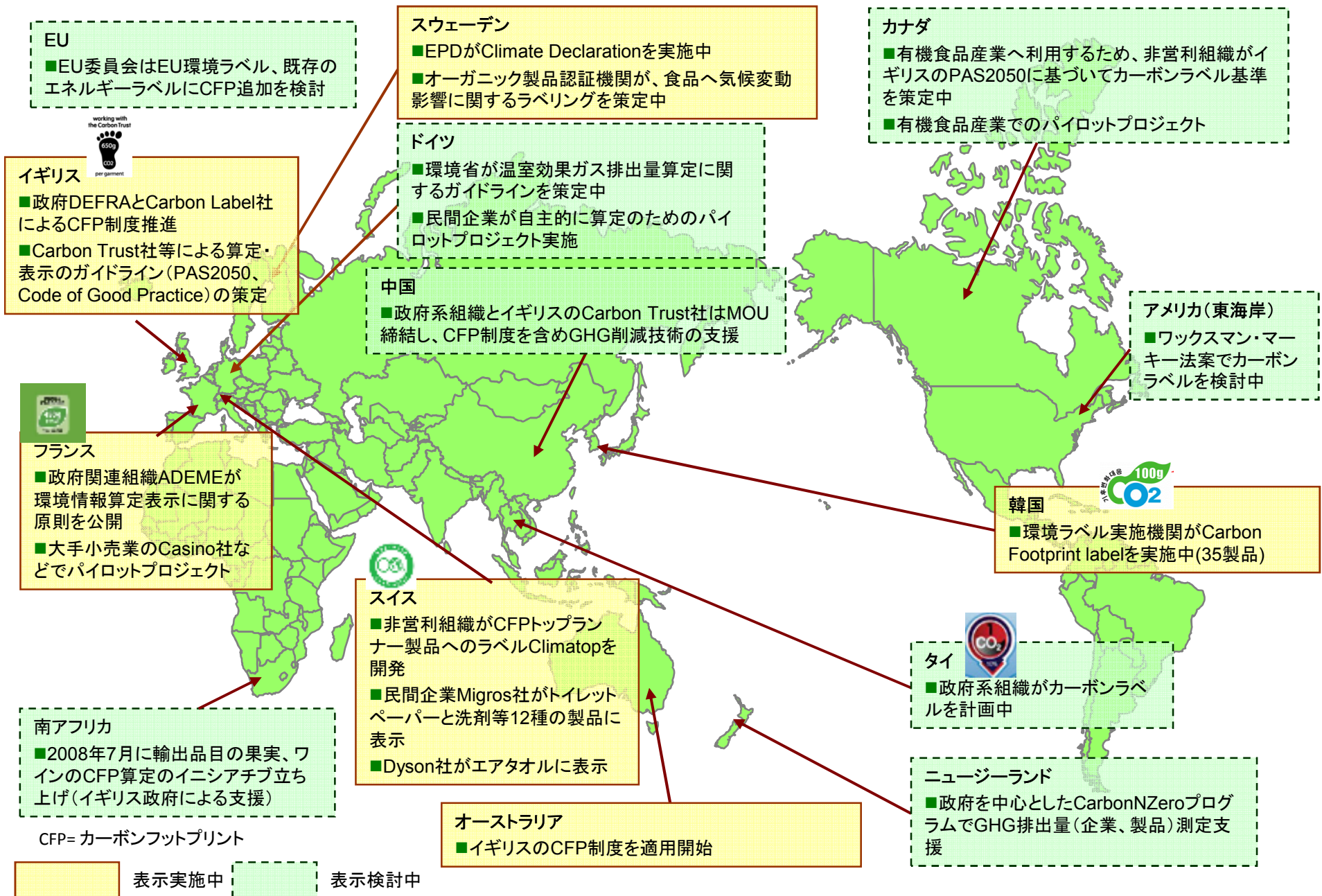
- CV-AA-01 - 04 うるち米 (ジャポニカ米) イオン株式会社
- CV-AA-05 うるち米 (ジャポニカ米) 立命館大学、イオン株式会社
- CV-AB-01 - 02 菜種油 イオン株式会社
- CV-AC-01 - 02 衣料用粉末洗剤 イオン株式会社
- CV-AE-01 キャンデー (醤油で味付けした商品) カンロ株式会社
- CV-AG-01 - 02 生ポテトチップス カルビー株式会社
(契約栽培された国産馬鈴薯を使用した商品)
- V-AH-01 - 03 パックご飯 イオン株式会社
- CV-AI-01 - 05 ハム・ソーセージ類 日本ハム株式会社
- CV-AJ-01 米菓 (うすく焼きサラダ油掛けした商品) 亀田製菓株式会社
- CV-AN-01 - 03 食品廃棄物を原料とした有機質の液体肥料 アースサポート株式会社



* イオン株式会社は2009年末にこれらの商品をお歳暮ギフトとして販売。

* 日本ハム株式会社は2010年2月1日よりカーボンフットプリントを貼付した商品を全国の店頭で販売

世界におけるカーボンフットプリントの動き



タイにおけるカーボンフットプリントの取り組み・参加企業



Carpets Inter®



タイにおける事例

"TUM_Kaeng_Waan_Tuna"

from Thai Union Manufacturing Co., Ltd.

CFP=521 g/can

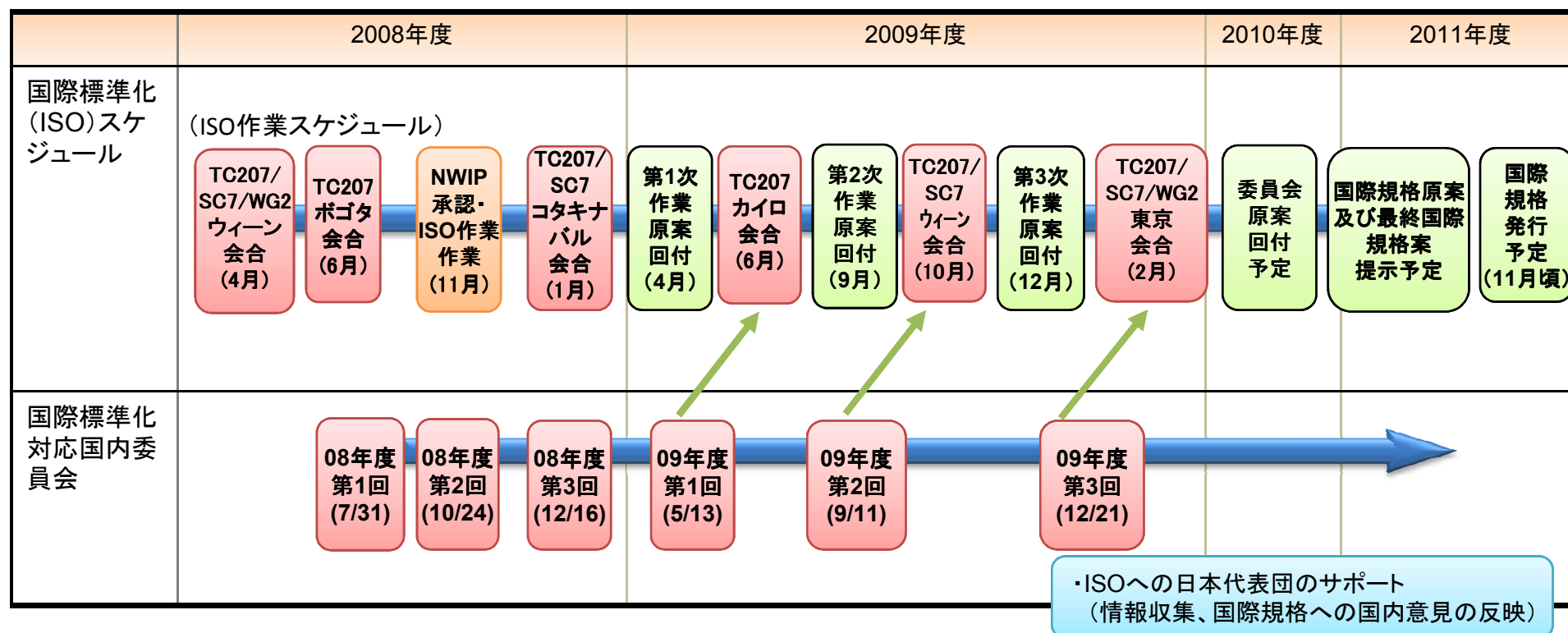


今日は

1. カーボンフットプリントの背景と
経済産業省の試行事業(2008年度)
2. ライフサイクルアセスメント(LCA)と
カーボンフットプリント(TS Q 0010)
3. 経済産業省の試行事業(2009年度)
4. ISO化の作業(ISO 14067)
5. 消費者の受け止め方

カーボンフットプリントに係る国際標準化について

- 2007年6月、ISO/TC207（環境マネジメントに関する技術委員会）北京会合でカーボンフットプリントについて最初の議論。
- 2008年6月末のボゴタ会合で、我が国がイギリス、ドイツ、アメリカ等と共同で国際標準化作業開始を提案（NWIP）。加盟国による投票の結果、11月に承認。本格的な規格化作業が始動。
- 2009年1月に第1回WG（ISO/TC207/SC7/WG2）をマレーシアにて、6月に第2回をエジプト、10月に第3回をウィーンにて開催。第4回は2010年2月9日～12日に東京にて開催予定。
- NWIP承認後、最大3年間程度の作業期間を経て、2011年11月頃に国際規格を発行予定。
- 我が国としては、市場導入試行事業、研究会等の成果をもとに、国際標準化対応国内委員会にて関係者の意見を集約する体制を整備。制度の普及促進のため、分野ごとの特殊性に配慮したルールを主張する等、国内の取組を踏まえ、積極的に対応。



今日は

1. カーボンフットプリントの背景と
経済産業省の試行事業(2008年度)
2. ライフサイクルアセスメント(LCA)と
カーボンフットプリント(TS Q 0010)
3. 経済産業省の試行事業(2009年度)
4. ISO化の作業(ISO 14067)
5. 消費者の受け止め方

カーボンフットプリントに係るアンケート調査(2009エコプロ展)

◆2009年12月に開催されたエコプロダクト展において行ったアンケート結果。

- ・回答総数: 841件(男女比2:1)
- ・属性: 会社員約6割、学生約1割、主婦約5%、自営業約3%
- ・年齢: 20代から50代まで、各年代とも約20%

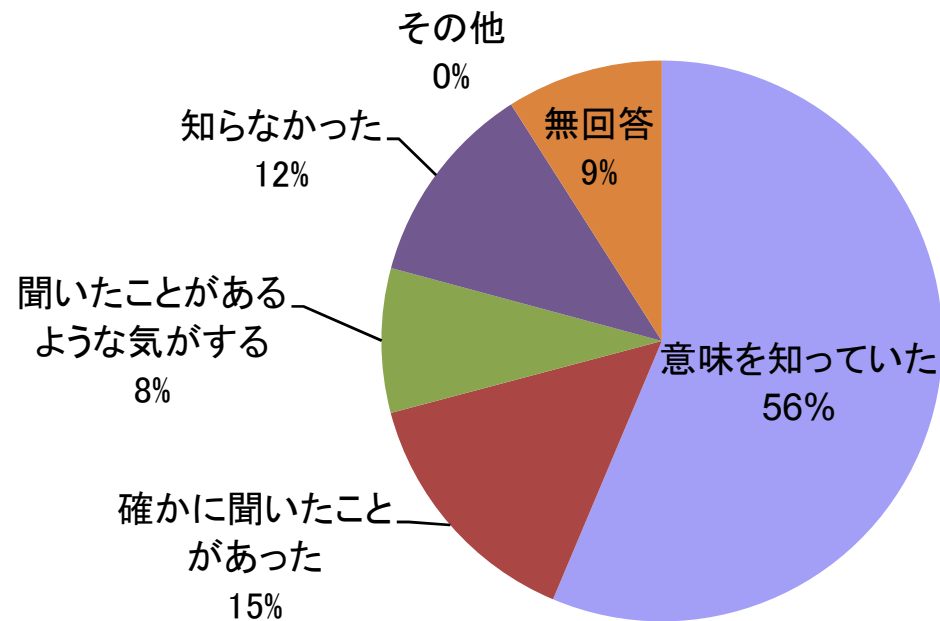


カーボンフットプリントに係るアンケート調査(2009エコプロ展)

Q カーボンフットプリントの認知度について

→「意味を知っている」「確かに聞いたことがある」あわせて7割超と高い認知度。

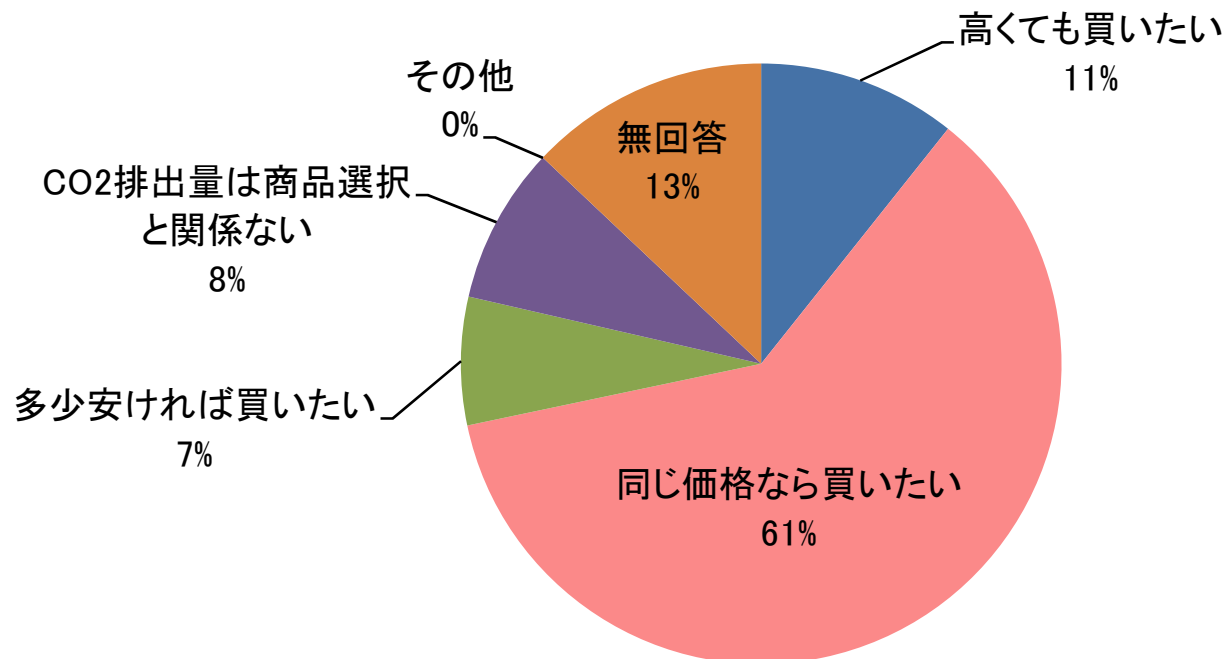
(回答者がビジネスマン中心であることから、もともとカーボンフットプリントに関心がある可能性あり)



カーボンフットプリントに係るアンケート調査（2009エコプロ展）

Q 商品を選択において、同じ種類の他の商品と比べてCO₂排出量が少ない商品を優先して購入するか？

→「高くても買いたい」は11%に。「同じ価格なら」は6割の回答を集めており、CFP普及にはコストの抑制が不可欠。



カーボンフットプリントに係るアンケート調査(2009エコプロ展)

Q LCAの性格上、CFPはある程度幅をもっている。この数値を商品に表示することについてどう考えるか？

→排出量が厳密でなくともコスト上昇を伴わない表示システムを望む声が55.9%と多かった。

質 問 項 目	回答率
① 仮にコストが上がることになったとしても、商品に表示される数値は厳密に正確な数値がよい	22.2 %
② 商品ごとの大まかなCO2排出量が分ればいいので、価格が上がらない程度で大まかな数値が商品に表示されればよい	55.9 %
③ 数値に幅があるのであれば、誤解が生じやすいので商品には数値を表示しない方がよい (回答数92件)	10.9 %
④ その他 (回答数3件)	0.4 %
⑤ 無回答	10.6 %

カーボンフットプリントに係るアンケート調査(2009エコプロ展)

Q 前問において、「③商品には数値を表示しない方がよい」と答えた方について、他の表示方法はどちらがよいか？

→前問で③を選択した92名以外からも回答があり、回答数は249件。ここでは、CO₂削減努力が分かればよい、また、マーク+ウェブ詳細情報がよい、が46.6%をともに獲得。

質 問 項 目	回答率
① 商品には(数値が記載されていない)マークを表示し、CO ₂ 削減に努力していることが分ればよい	46.6 %
② 商品に(数値が記載されていない)マークを表示することに加え、ウェブ上に算定の条件や数値の根拠等について説明を付した上で数値が開示されていて、必要な時に数値を確認できればよい。	46.6 %
③ マークの表示やCO ₂ 排出量には関心がない	4.8 %
④ その他	2.0 %

カーボンフットプリントに係るアンケート調査(2009エコプロ展)

Q 商品がもたらす環境負荷には、温室効果ガスの他、資源枯渇・大気汚染・水質汚濁など多様なものがある。CFPはこのうちGHG排出量に特化しているが、このような数値を表示することについて、どう考えるか？

→②の「とりあえずCO₂を表示」とする回答数が最も多いが、①の「CO₂に特化して表示」と併せれば69%と多い結果となっている。

質問項目	回答率
① 地球温暖化問題はとても重要なので、CO ₂ に特化して表示することが重要	32.6 %
② 多くの情報が商品につけられていても煩雑で分りにくいので、とりあえずCO ₂ だけ表示されていればよい	36.3 %
③ 地球温暖化問題以外にも環境に影響を与えるものがあるので、CO ₂ だけ表示することは好ましくない	19.5 %
④ CO ₂ を含めて環境負荷については考慮しない	1.0 %
⑤ その他	0.1 %
⑥ 無回答	10.5 %

(参考)カーボンフットプリント制度に関する情報提供について

- カーボンフットプリント制度を広く情報発信し、更なる事業者及び消費者の認知度・理解度向上を図るため、Webサイトを開設。

日本語：<http://www.cfp-japan.jp>

英語：<http://www.cfp-japan.jp/english/>

日本語版

The screenshot shows the Japanese homepage of the Carbon Footprint of Products website. At the top, there is a header with the logo '123g CO₂ Carbon Footprint of Products' and the tagline '製品のCO₂の「見える化」カーボンフットプリント'. Below the header is a navigation bar with links: HOME, CFPとは, CFP制度について, CFP制度への参加, CFP対象製品, and CFP算出経路. The main content area features a large image of a hand holding a small green plant against a blue sky, with the text 'CO₂を見て、選ぶ。カーボンフットプリントが始まります。'. Below this is a 'WHAT'S NEW' section with a list of recent updates. On the right side, there are several buttons for 'ISO関連情報', '海外の動向', '報道発表', 'イベント情報', and '支援事業のご案内'. At the bottom, there is a section titled 'CFPとは?' with a brief explanation of the system.

英語語版

The screenshot shows the English homepage of the Carbon Footprint of Products website. At the top, there is a header with the logo '123g CO₂ Carbon Footprint of Products' and the tagline 'Identification of the quantity of greenhouse gas emissions of products'. Below the header is a navigation bar with links: HOME, About CFP, About CFP System, List of PCRs, List of CFP Products, and Rules & Specifications. The main content area features a large image of a hand holding a small green plant against a blue sky, with the text 'The Carbon Footprint of Products system has been kicked off in Japan'. Below this is a 'WHAT'S NEW' section with a list of recent updates. On the right side, there are several buttons for 'Press Releases', 'Events', and 'Global PCR Library'. At the bottom, there is a section titled 'Ministry of Economy, Trade and Industry' and 'Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries'.